SRL Monthly Report 2021. 12
半導体産業の動向と将来に関する独自の分析と解説を中心としたレポート

２０２１年１２月（No.390)

主な内容とページ

2021 年回顧　品不足と政治リスク..1
品不足に明け暮れた 1 年..2
繰り返す自動車向け半導体不足 3
外資導入に転換した政府の半導体施策 3
高まる政治リスク..4
2021 年の M&A 4
21 年の IPO は 8 社...12
TSMC ショック（SRL だより) 13

2021 年回顧　品不足と政治リスク

2021 年はどのような年だったか。品不足に明け暮れ、政治を巻き込んだ動きが本格化した。

1. 昨年末に表面化した半導体の品不足は年末でも解消の兆しは見当たらない。半導体の需要は好調で空前の設備投資が実施され、産業としては記録更新の年となった。

2. 半導体産業での大型合併の停滞や各国政府による半導体産業への支援が本格化した。 米中対立の激化が影響、産業での政治リスクが高まっている。

3. わが国は、国を挙げて半導体再興へ取り組む方向が打ち出され、台湾 TSMC の誘致など具体策が始まった。

 Semicon Research Ltd.　Copyright 2021 ©

TSMC ショック

半導体製造受託で世界トップの台湾 TSMC が、わが国に工場進出を決めたことは、今年最大のトピックと思う。これによってわが国でも先端ロジック半導体の生産が行われ、関連生産基盤が整う。もちろん、進出を巡っては賛否が交錯、TSMC ショックをもたらしている。

税金を使って外資誘致、その工場の採算、市場への貢献、雇用人材などの是非だ。それぞれ課題はあるが、私は日本企業がやれなかったことを外資の力で補う。なぜ出来なかったか、経営問題であり、製造受託は「下請け」で、これは日本の同業大手では出来ない。下請けを使うことはあっても、その逆は、出来ないのだ。

TSMC だけではないが外資は「下請け」でなく「横請け」で、対等に顧客に接し、顧客の問題を解決、ともに利益を増大、「ファブレス-ファウンドリ」モデルを確立した。日本はこの分野は不毛だが、「ユニクロ」や「ニトリ」の例をみれば半導体でもやれないはずはない。「TSMC ショック」は業界刷新につながることを期待したい。

（大竹　修）

本誌の内容一覧、索引は、SRL ホームページをご利用ください。

http://www.semiconresearch.co.jp/

この資料の複写、複製その他電子的な方法等によるいかなる形での複写利用をお断りします。この資料は公開されている文書および、社会的に信用ある企業、団体等の責任者によって公開された情報を SRL の解釈と分析で表現したものです。

2021 年　版権所有　株式会社 SRL

SRL Monthly Report
2021 年 12 月（毎月 1 回発行）第 32 巻 12 号（通巻 390 号）

発行元：株式会社 SRL
〒188-0014　東京都 西東京市 芝久保町　3-1-35
TEL 042-439-5317 FAX 042-439-5023
編集・発行人/大竹　修

SRL Monthly Report
December 2021, No.390

Semicon Research Ltd.
3-1-35 Shibakubo-Cho, Nishitokyo-City, Tokyo 188-0014 Japan
Mail: info@semiconresearch.co.jp
Publisher/Editor Osamu Ohtake

© ㈱SRL 2021
購読料金 1 年分（12 号）98,000 円（税別） 107,800 円（税込み）